

絶滅危惧種「盆花 ヒゴタイ」咲き始めました！



ひばの里「盆花(ぼにばな) ヒゴタイ」の様子 (2020年8月11日撮影)

当公園では、中国地方の貴重な生物種を有する里山の多様な自然環境の保全・活用に取り組んでおり、庄原市比和町〔ヒゴタイの会〕の保全活動の取り組みを尊重し、その活動を連携して伝え、ヒゴタイを通して文化への理解、自然環境や植物の保全を啓発することにより備北地域の活性化に寄与することと考えています。

こうした中で、平成24年10月に種の保存を目的として、庄原市比和町内の保護地区へ“ヒゴタイ種子の分譲依頼”を行い、県立広島大学との共同研究により育成した「盆花(ぼにばな) ヒゴタイ」の苗をひばの里に植栽しています。

開花時期：8月中旬～下旬

見頃時期：8月15日前後

※開花状況は、天候等により変動する可能性があります。

植栽数：約80株

お問い合わせ先

国営備北丘陵公園 備北公園管理センター

企画広報課 課長補佐：末長（すえなが）
係長：幡司（はたし）

〒727-0021 広島県庄原市三日市町 4-10
TEL：0824-72-7000 FAX：0824-72-7828
メール：kikaku@bihoku-park.jp
ホームページ：https://www.bihokupark.jp

ヒゴタイの園内展示（公開）

ヒゴタイ

学名：Echinops setifer
 分類：合弁花類 キク科
 環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
 統一カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類

経緯

国営備北丘陵公園は、「中国地方の歴史や文化とのふれあい」を基本理念の一つに定め、中国地方の特徴である里山環境ではぐくまれた歴史・伝統文化の保存、継承と貴重な生物種を有する里山の多様な自然環境の保全・活用に取り組んでおります。本公園は、伝統文化の継承としてヒゴタイを位置づける庄原市比和町三河内地区のヒゴタイの会の保全活動を尊重し、その活動を伝え、さらに、ヒゴタイを通して文化への理解、自然環境や植物の保全を啓発することにより備北地域の活性化に寄与するものと考えます。

平成24年10月、「ヒゴタイ種子の分譲依頼」をおこない、園内の公園利用者入場制限区域にて、肥培管理のもと、約200株の発芽を確認しました。

平成25年6月、福島大学 兼子特任教授（現在は准教授）、ヒゴタイの会 藤原会長と園内生育適地の現地調査を実施し、同年7月、ひばの里とみのりの里に定植しました。

今回、ひばの里に定植した個体と種子を確保するために保全（非公開）している個体（鉢植え）が開花したので、公園利用者に展示・公開することとしました。

「ぼにばな」とは、盆花（ぼんばな）のことです。三河内では、ぼんばなが訛って「ぼにばな」と呼んでいます。お盆を迎え、先祖の墓へ手向ける草花を総称して「ぼにばな」と呼んでいます。

かつて里山にあった草地は、農家にとっては和牛の餌資源を確保する大切な場でした。草地の草を鎌で手刈りしてその新鮮な野草を和牛に与えていましたから、草地は適正に管理され、お盆のころとなると、オミナエシ・ワシモコウ・キキョウなどの草花が咲きそろい、草地は「ぼにばな」摘みのかっこうの場所でした。

昭和三十二年から、耕運機などの農業用機械が普及するにつれ、和牛の役牛としての役割は薄らぎ、そのうえ、里山が薪炭林として持続的な利用もされなくなり、その結果、里山はすっかり荒廃してしまい、草地から草花が姿を消そうとしています。

ヒゴタイの会は、三河内地区の慶雲寺の「ぼにばなの咲く丘」で美しい花を咲かせるため、草刈、種取り、種まきなど精力的に活動されています。

自生地[庄原市比和町三河内]



ヒゴタイの花



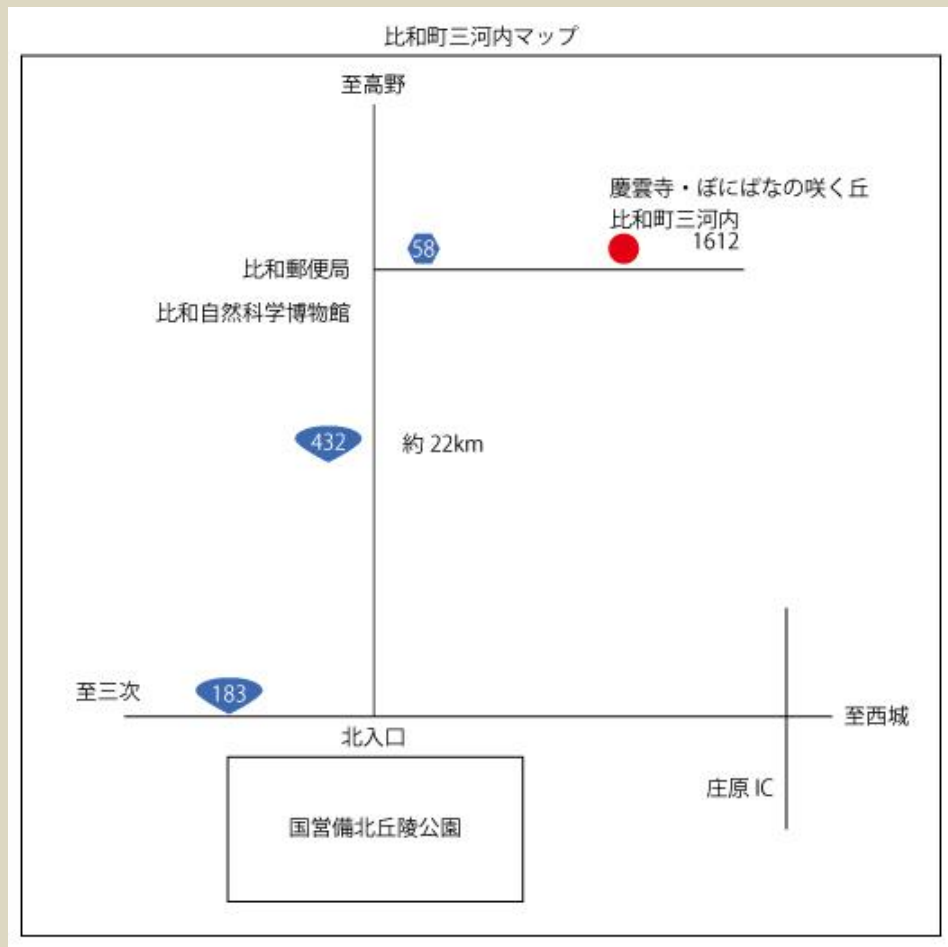
ぼにばなの咲く丘



草刈り作業



播種作業



「盆花(ぼにばな) ヒゴタイ」の様子



ひばの里「盆花(ぼにばな) ヒゴタイ」の様子 (2020年8月11日撮影)



ひばの里「盆花(ぼにばな) ヒゴタイ」の様子 (2020年8月11日撮影)